特集 Special feature

林業が森林環境と暮らしを守る！
100年先を見据えた森林づくり

林業が森林環境と暮らしを守る！

林業は今、全国的な森林の所有者の山離れや働き手不足から
スギやヒノキなどの人工林の適切な管理が進まず、森林環境や暮らしにも影響が出てきています。
このため、国では、市町村が独自に森林整備を進めるため、森林環境税の制度を導入しました。
今回の特集は、林業の現状と、森林環境税の制度を活用して市が進める
100年先を見据えた森林づくりの取り組みを紹介します。
特集を通じて、私たちにできる森林づくりを一緒に始めませんか？

林業の低迷

林業は、建物や家具、紙などの原料となる木を「植えて、育てて、収穫（伐採）して、また植えて」と、50年以上の年月をかけ繰り返す産業です。
戦後、建築用材が不足し、スギやヒノキが全国各地で植えられ、市内では市全体の面積の約2割にあたる約450㎢の人工林がつくられました。
しかし、木材価格が下がるにつれ、森林の所有者の意欲が薄れ、自分の山の場所や境界が分からないといった「山離れ」が進んでいます。
そのため、現在では人工林の約半数で適切な管理が行われておらず、管理する働き手も不足し、市の林業は低迷しています。

手入れされない林内は真っ暗

森林力も低下 暮らしに影響も

人工林は、木を間引く「間伐」という手入れを行わないと、木々が密集し、森林内に光が届かず下草も生えなくなります。そうなると「森林のチカラ（3ページ参照）」が弱まり、洪水や土砂崩れ、倒木被害、獣害など、私たちの暮らしに影響が出ます。

100年先を見据えた森林づくり

市では、森林環境や市民の暮らしを守るため、森林所有者や林業を営む事業者と連携し、適正な森林管理を進めています。また、皆さんに森林や林業の大切さ、木の良さを理解していただきながら、災害に強い森林づくりや市産材の利用、林業を支える人づくりを、100年先を見据え取り組んでいます。

人工林の外観